

途上国アルバム：イラン紀行：テヘラン～シラーズ～エスファハーン

SRID 事務局長 山下 道子

2015 年になって 2 度もイランを訪れる機会があった。いずれも FIDIC（国際コンサルティング・エンジニア連盟）の大会に参加した夫に free ride させてもらった。イランというと、イスラム原理主義の元祖ともいべきホメイニ師の顔が思い浮かび、「恐ろしい国」というイメージがある。1979 年のイスラム革命、1980-88 年のイラン・イラク戦争、1990-91 年の湾岸戦争を経て、2002 年以降、核開発問題などで長期にわたり西側諸国の経済制裁を受けた。2013 年にハメネイ師のもとでロウハニ政権が発足してから急速に民主化が広がり、2015 年 7 月には欧米諸国と制裁解除に向けた最終合意がなされた。現在は渡航制限が緩和され、海外からの観光客も増えている。

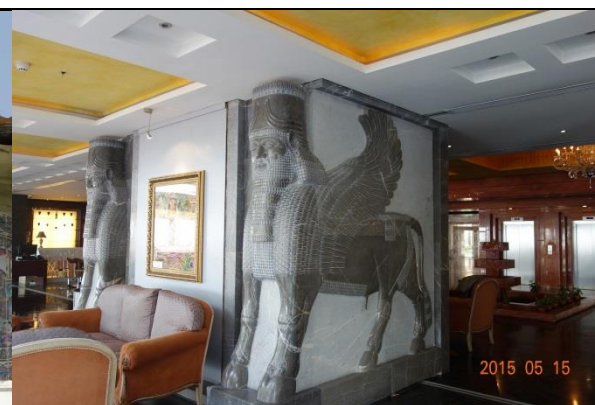
FIDIC のアジア太平洋地域連合大会が 5 月にテヘランで開催された。Free riders は用意された同伴者プログラムで市内の考古学博物館やゴレスターン宮殿などを見学した。なかでもパーレビー王家の離宮であった宮殿博物館は、国王一家が暮らしていた当時のままに保存されており、激しい革命を経たとは思えない光景に感動を覚えた。会議終了後、ペルセポリスの遺跡で名高いシラーズを訪れた。ペルセポリスは紀元前 520 年にダレイオス 1 世が建設。紀元前 330 年にアレキサンダー大王によって滅ぼされたアケメネス朝ペルシャの首都である。2500 年の歳月を経た遺跡には、石に刻まれたレリーフが驚くほど鮮明に残されている。



シラーズの宮殿（庭園のみ開放）



宮殿のバルコニー上部にあるモザイク画



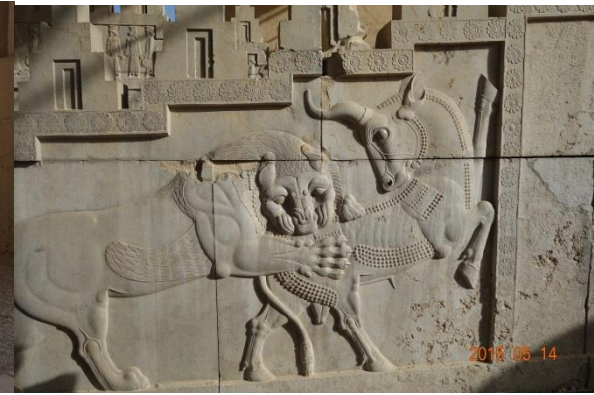
シラーズで宿泊したホテルのロビー



ペルセポリス遺跡の遠景



ペルセポリスのレリーフ（王への貢物）



同（馬に噛みつくライオン）

テヘランは街並みが整然として、ハイウェイが縦横に走っている。平和で秩序が保たれており、人々の表情も明るい。公園が美しく整備され、多くの家族連れがピクニックを楽しんでいる。今の中東でこうした風景が見られる国は珍しいのではないか。テヘランの新たなシンボルが、2014年に完成した歩道橋 Nature Bridge である。若い女性が設計したという鋼鉄製の3層建てのユニークなこの橋は、新国立競技場を設計した Zaha Hadid 氏のデザインを思わせる。この橋を紹介する TV プログラムが YouTube にアップされており、これを見ればテヘランの現状が一目瞭然である。https://www.youtube.com/watch?v=638p80VZY_c



Nature Bridge（テヘラン）の下に広がる公園



橋の上を家族連れが行き交う



鋼鉄製3層建てのユニークな構造

急進的な革命政権を経て、現政権は広く民衆の支持を受け信頼されていると感じる。英語教育に力を入れており、子供達が英語で話しかけてくる。東洋人は珍しいのか、あちこちで一緒に写真を撮らせて欲しいと頼まれた。大学入試では女子の合格率が年々上昇し、今では理系を含め、ほぼ全学部で女性が男性を上回っているようだ。そんなイランでもいまだに女性はスカーフと長袖、ひざ丈の上着着用が義務づけられている。しかし、色が白く、美人が多いお国柄。若い女性は例外なく目元くっきりの厚化粧である。女性の美しさを隠すのが目的なら化粧はもってのほかだと思うのだが、単なる「決め」の問題か、規制を見直すという意識はないようである。



アーダーティ・タール（テヘラン）で出会った若者達

庭園博物館（エスファハーン）で家族連れと

庭園博物館内のカフェでお茶

9月には UAE（アラブ首長国連邦）のドバイで FIDIC の第 102 回年次総会が開催された。総会終了後、味を占めて 2 度目のイラン旅行を計画した。行先は中世の街として人気のエスファハーン。1612 年にサファヴィ朝ペルシャのアッバス 1 世が建設に着手した。観光の中心はモスクと宮殿が立ち並ぶエマーム広場。中でも、マスジェデ・エマームは「イスラム芸術の集大成」といわれるほど偉大なモスクで、モザイク・タイルの美しさは比類がない。広大な広場を取り囲む建物には土産物屋が軒を連らね、高級な鋳物、陶器、絨毯などを商っている。広場の中央に位置する修復中の王宮は、前面がテラスになっており、かつて王様がポロの試合を観戦したそうである。



マスジェド・エマーム・モスク（エスファハーン）の門



同門の天井を飾る鍾乳石の装飾



エマーム広場の中央に構えるアーリー・ガープー宮殿

エスファハーンから帰国する途中、ドバイで一泊して UAE の首都アブダビまでシェイク・ザイド・モスクを見に行った。これはアブダビの父と慕われた初代大統領に因んで名づけられたモスクで、竣工は 2007 年。話に聞く白亜の巨大モスクは想像以上に素晴らしかった。世界最大のペルシャ絨毯が中央の大ホールに敷き詰められており、建物の内部は冷房が効いていて、デザインもモダンであった。



シェイク・ザイド・モスクの全景（アブダビ）



側面のプール



大理石を敷き詰めた中庭



中央ホールのペルシャ絨毯